

「天国の7つのたとえ2」

マタイの福音書 13:24~30

良い麦と毒麦

(p26)

誰でも天国に入りたいと思っているが、全く天国について解らないのが人間の現実である。しかし、神の御子主イエスは、天から来られ「天国とは何か？誰が、どのようにして入れるのか？」を、教えることができる唯一の方である。主イエスは人間には見えない霊的な世界を、見える現実の物や出来事を持ち出して、私たちに説明して下さったのである。

「天国」「神の国」とは、「死んでから行く国」とか「この世にはないどこかにある国」という場所の事だけではない。多くの場合「天の神の支配される領域」「神の支配される国」という意味で用いられる。天国を支配される王である神が、生きている自分の心にも臨んで下さる。その延長線上に「天国」「神の国」がある。私たちが神の導きに心を開き、神のご支配に自分をゆだね、神に全く依り頼むとき、ご聖霊は私たちの心を開かれる。ご聖霊により神が解り、天国が解るのである。主イエスは「耳のある者は聞きなさい」と語りかけられる。あなたの心は神の前に開かれているだろうか。

[聖書の学び]

I、群衆に語られた、「毒麦のたとえ」



1、毒麦とは、何か？ (マタイ 13:24~25 p26)

◎毒麦とは一種の雑草で、ある種の毒性がある。

発育の初期は大麦や小麦と殆ど見分けが付かない。毒麦は小麦の株の間に生える事が多い。小麦は根が弱く、毒麦を引き抜くときに一緒に抜けてしまう危険性が多い。

2、当時の群衆にもよく分かる「毒麦のたとえ」 (マタイ 13:24~30)

①毒麦が敵によって蒔かれたとき、人々はどうしていましたか？ (v25)

②毒麦が、はっきり毒麦だと分かるのは、いつでしょうか？ (v26)

③敵はどうして毒麦を蒔いたと思いますか？

- ・収穫を遅らせ、手間をかけさせ、その間に収穫を横取りする隙を狙う。
- ・毒麦に気づかないで収穫させ、全部混じって食べられなくなるように仕向ける。
- ・収穫が少なくなった国を笑いものにし、攻撃する。

Ⅱ、弟子に語られた、「毒麦のたとえ」(マタイ 13:36～43)

1、天国のたとえとしての「毒麦のたとえ」

①良い種を蒔かれ、後に御使いを遣わされ収穫されるのは、どなたでしょうか。
(v37)

人の子とは？

②38、39 節のみことばをよく見ましょう。

- ・ 畑——→
- ・ 良い種——→
- ・ 毒麦——→
- ・ 敵——→
- ・ 収穫——→

③世の終わりのとき、どのようになるのでしょうか？(マタイ 13:40～43、黙示 20:10、14、15)

2、愛なる神様の御計画について

①どうして主は終わりのときまで、毒麦である不法を行う者を、良い者と混ざったまま成長させておかれるのでしょうか？

- ・ マタイ 18:14 …… 間違っただけで抜かれないように。--- さばきの時まで待つ。
(p37)

毒麦も変えられる可能性がある。

- ・ ローマ 5:2～5 …… 敵が蒔いた毒麦が、試練として御国の子らに必要なことがある。
(p304)

②良い麦と毒麦の成長した時の実の違いは、どのように解るのでしょうか。

- ・ v41…
- ・ v43…

③弟子たちに主イエスが「耳のある者は聞きなさい」と警告された理由は何でしょうか。
(v37)

* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。